

R7
8/6
(水)

ハイブリッド開催

「子どもの性被害とSNS」
「子どもへの性犯罪・性暴力被害を防ぐために
私たちにできること」

追手門学院大学 心理学部 心理学科 教授

櫻井 鼓さん



総論編では、「子どもの性被害とSOS」をテーマに、
1性暴力とは「性暴力」「性的同意」の定義や、2子どものSNSを介した性暴力被害の現状について①セクスティング被害（性的な自画撮り画像をネット上で送信する）②性的ディープフェイク（AI技術で子どもが女性の性的な画像を作り出す）③性的グルーミング（わいせつな目的で若年者を手なずける行為）について具体的な事例をまじえた説明がありました。

SNSによるこどもの性暴力の特徴についてSNSの課題や加害者の手口・被害児童の課題と対応についてデータ分析に基づく説明がありました。ネット問題の鍵を握るのは、「リアルの関係」として、ペアレンタルコントロール（保護者による使用制限）や支援者と子どもとの関係の構築等が重要であると結ばれました。

各論編では、「子どもへの性犯罪・性暴力被害を防ぐために私たちができること」をテーマに事例検討中心に学びました。どうやって子どものSOSに気付き、被害の防止や早期の支援につなげていくかをグループで考えました。事例検討を踏まえ、支援に結びつける実践的なヒントを得ました。

受講生の感想

- ・ 午前中に講師の豊富なご経験から全体を理解し、最近の傾向と歯止め策をご教示いただきました。
- ・ 午前中に理論的なことを学び、午後からの事例をもとに各自でワークを行い、しっかり考える時間がとても良かった。そしてグループの中で意見交換出来ているんな職種の方と話し合う時間がとても有意義だった。全体で振り返る時間も幅広く意見を聞く事ができ改めて性教育の重要性を感じました。
- ・ グループワークの事例検討で各グループの発表を聞き、その後の先生のコメントも分かりやすく、今後相談を受けるときの参考になった。先生の言葉の中で「こちら側の誠実さが伝わると子どもが打ち明けてくれる」と言われた。とても大切な言葉だと思った。毎日の相談活動の中で忘れず対応していきたい。
- ・ 身近な例を挙げて説明していただき、子どもだけでなく、大人にも言えることだと思いながら拝聴していました。加害者の下から離れられないというDV被害者の洗脳も加害者からのグルーミングによるものだなと思いました。周りの人がその人の存在の証明、承認欲求を満たす存在であることがとても重要なことだと痛感しました。